

平成28年度
燕市教育行政評価結果報告書



燕市教育委員会



目 次

I. はじめに

1. 点検・評価の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 教育行政評価委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
3. 点検・評価の実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

II. 教育委員会の事業一覧

1. 平成28年度に実施した教育委員会の主要事業一覧・・・・・・・・ 3

III 点検・評価の結果

【平成28年度評価対象事業】

1. 「Jack & Betty プロジェクト」・・・・・・・・・・・・・・ 21
2. 「Good Job つばめ推進事業」・・・・・・・・・・・・・・ 23
3. 「つばめキッズファーム事業」・・・・・・・・・・・・・・ 25
4. 「市立保育園保育室冷暖房設備設置事業」・・・・・・・・・・ 27
5. 「市立児童クラブ延長保育及び利用対象学年拡充事業」・・・・ 28
6. 「病児・病後児保育事業」・・・・・・・・・・・・・・ 30
7. 「燕市生涯学習人材バンク制度再構築事業」・・・・・・・・・・ 32
8. 「子どもの体力向上サポート事業」・・・・・・・・・・・・・・ 34
9. 「東京五輪キャンプ地誘致事業」・・・・・・・・・・・・・・ 35

【第2次燕市学校教育基本計画】

10. 「第2次燕市学校教育基本計画」・・・・・・・・・・・・・・ 37

IV 教育委員会の会議及び教育委員の主な活動状況

1. 教育委員会の会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
2. 教育委員の市内視察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
3. 教育関係会議への出席・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46

V 教育行政評価結果報告書作成にあたって・・・・・・・・・・・・・・ 46

I はじめに

1. 点検・評価の目的

燕市教育委員会では、市民に信頼される公正で透明、簡素で効率的な教育行政の実現を図るため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条の規定に基づき、毎年、主要な施策及び事務事業の取組状況について点検評価を行い、課題を明らかにし、今後の方向性を検討しています。

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

【燕市教育大綱に掲げる基本方針及び施策】

基本方針 1 地域に根ざした教育の推進・子育て支援

施策 1 知・徳・体を育成する教育の推進

施策 2 安心して産み育てられる子育て支援

基本方針 2 市民が主役の健康づくり・生きがいづくり

施策 1 健全な心と体を支えるスポーツの推進

施策 2 心豊かな生涯学習・文化活動の充実

2. 教育行政評価委員

(敬称略)

氏 名	役 職 等
委員長 永 井 宏	元燕市立燕北中学校長
副委員長 小 林 理恵子	元燕市総合計画審議委員
委 員 高 橋 弥 一	元燕市立燕西小学校 PTA 会長

3. 点検・評価の実施状況

平成 28 年度実施の全ての予算事業とその上位目標である施策の中から 9 事業を教育行政評価委員から選定いただき、評価を行っていただきました。また、第 2 次燕市学校教育基本計画についても、点検及び評価を実施していただきました。

開 催 日	出 席 者	会 議 内 容
平成 29 年 2 月 15 日（水）	委員 3 名、教育次長、教育委員会主幹、学校教育課長、子育て支援課長、社会教育課長及び事務局職員 7 名	・委員長及び副委員長の選出 ・主要事業の概要説明及び質疑応答
平成 29 年 3 月 28 日（火）	委員 3 名、教育次長、教育委員会主幹、学校教育課長及び事務局職員 3 名	・評価対象事業の選定作業 ・第 2 次燕市学校教育基本計画の進行管理について説明
平成 29 年 5 月 1 日（月）	委員 3 名、教育次長、教育委員会主幹、学校教育課長、子育て支援課長、社会教育課長及び事務局職員 11 名	・事業評価作業 ・第 2 次燕市学校教育基本計画の評価作業
平成 29 年 7 月 3 日（月）	委員 3 名、教育次長、教育委員会主幹、学校教育課長、子育て支援課長、社会教育課長及び事務局職員 10 名	・報告書取りまとめ

Ⅱ. 教育委員会の事業一覧

1. 平成28年度に実施した教育委員会の主要事業一覧

課名	No.	事業名	事業の概要
学校教育課	1	Jack & Betty プロジェクト	外国語指導助手（ALT）3名と日本人英語指導助手（JTE）5人を配置し、幼稚園・保育園・こども園から小中学校まで、一貫した外国語教育を行いました。「燕市の未来を担い、次世代のリーダーとなる」「世界共通語である英語を話し世界に通用する」人材育成のため、Jack & Betty 教室、英語スピーチコンテスト、親善大使海外派遣事業に加え、夏休み英会話教室、イングリッシュサマーキャンプを実施しました。英語検定受験のための支援を行いました。
	2	特別支援学校就学援助事業	当市在住の盲・聾・特別支援学校の児童生徒の保護者に対して、経済的負担を軽減するため、就学に必要な経費について援助を行いました。県立月ヶ岡特別支援学校に通学する児童・生徒を対象に、保健・福祉施設障がい者地域生活支援センター「はばたき」から学校までの送迎を行いました。
	3	奨学金貸付事業	教育の機会均等と人材育成を図るため、修学の意欲があり、経済的理由により就学が困難な学生または生徒に対して奨学金の貸与を行いました。【新規貸与決定者】44人（大学24人、短大2人、専修学校9人、高校9人）
	4	学校教育管理費	教職員用パソコンと校務支援システムにより、教職員の多忙化解消を進め、教育の質の向上を図りました。また、校外学習等で使用するマイクロバスの車両整備を行いました。
	5	地域に根ざす学校応援団事業	学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちの健やかな成長や地域全体の教育力向上を目的として、地域コーディネーターとの連携により、学校支援ボランティアによる「地域に作られた学校の応援団」として地域住民の参加を図りました。また、地域住民の参加による「放課後等の学習支援活動」に取り組み、学力向上を図りました。なお、学校における放課後学習の需要が多く、放課後学習支援員が多数必要となったため、平成27年度比341千円の増となりました。

6	ＩＣＴ教育推進事業	市内の小中学校に、児童用タブレット等を配備し、子どもたちの学習意欲を引き出すとともに、授業の幅を広げ、分かりやすい授業を展開しました。ＩＣＴ支援員を配置し、ＩＣＴ機器（タブレットＰＣ・電子黒板）・ソフトウェアの積極的な活用の支援等を行いました。平成28年度は、ＩＣＴ支援員１名の増員、パソコンの入替（児童用タブレット型パソコンの導入）、普通教室の無線ＬＡＮ工事等、ＩＣＴ環境の整備を行ったため、平成27年度比127,760千円の増となりました。
7	燕ジュニア検定事業	小学校の子どもたちを対象に、地域の歴史や文化等を楽しく勉強してもらい、ふるさとへの誇りと愛着をもってもらうため、「燕ジュニア検定問題集（平成23年度作成）」を活用し、各小学校で、燕長善タイム等の時間を利用した学習を行いました。平成28年度に実施したジュニア検定では、燕市内の小学生2,892人が受検しました。
8	子ども夢づくり事業	子ども夢基金を活用し、小中学生が全国スポーツ大会に出場の際、遠征費の補助を行いました。平成28年度は、全国大会への出場が大きく減少したことにより平成27年度に比べ人数で17人、補助額で909千円の減額となりました。 【補助人数及び補助額】 ○小学生 22人 630千円 ○中学生 28人 744千円
9	姉妹都市子ども交流事業	姉妹都市のアメリカ合衆国ダンディ村から生徒４人と引率１人を受け入れ、市民宅でのホームステイや児童生徒との交流などを通じて青少年の国際理解を深めました。なお、この事業は燕市の中学生派遣とダンディ村からの生徒受入を隔年で実施していることから、平成27年度比で669千円の減となりました。
10	長善館学習塾事業	ふるさと燕市を愛し、様々な分野において将来の燕市を担い、活躍する次世代のリーダーとなる人材を育成するため、小学６年生を対象に巻機山麓での宿泊体験や防災キャンプ等、長善館の精神を活かした体験をする長善館学習塾を開催し、21人が参加しました。なお、参加人数の増加により平成27年度比166千円の増となりました。

11	広島平和記念式典派遣事業	非核平和宣言推進事業の一環として、市内5中学校から代表生徒それぞれ1人を、広島平和記念式典に派遣し、国際的な視野をもって命の尊厳や平和の尊さについて理解ができる生徒の育成に努めました。
12	笑顔で入学支援事業	全小学校15校において入学予定児童のおよそ630名の保護者を対象に講演を行い、入学に対する不安解消や心構えなど入学を円滑にするための支援を行いました。
13	燕キャプテンミーティング	市内中学校の部活動リーダーを育成し、資質の向上を図るため、12月26日から28日まで、講演やコミュニケーション活動などを実施しました。3日間で延べ233人の中学1・2年生が参加しました。
14	学校図書館充実事業	計画的に図書を購入し、児童生徒の読書活動の推進や学習環境を整備しています。また、学校図書館管理システムを活用して蔵書管理や児童生徒の読書傾向の把握に努め蔵書の充実や読書活動の推進を行うとともに、学校図書館司書業務嘱託員を配置し各学校図書館の運営をサポートしました。なお、平成28年度は蔵書の充実を図ったため、平成27年度比9,423千円の増となりました。
15	学校・地域連携促進事業	市内の小中学校等を対象に、学校と地域の距離をさらに縮め、学校・地域・保護者が一体となって子どもたちを育む体制づくりをより一層図り、学校と地域の連携を強化するための研修会や講演会等の17件の事業に対して支援を行いました。
16	羽ばたけつばくろ応援事業	若者の主体的な活動を応援し、燕市の将来を担う人材を育成することを目的に、夢の実現や社会参画に対する支援を行いました。 平成28年度は、個人の申請はなく、団体のみの申請で、平成27年度に比べ件数で3件、補助額で114千円の減額となりました。 【平成28年度 補助件数及び補助額】 団体4件 722千円 ・個人 高校生から20歳まで 上限10万円 ・団体 小学生から20歳まで 上限25万円
17	スクールソーシャルワーカー派遣事業	不登校をはじめとする問題行動の解決に必要な学校体制を、より強固なものにするため、スクールソーシャルワーカーを学校に派遣し、児童生徒、保護者、校長及び教職員のつなぎ役を担うことによって、不登校児童生徒の支援を行いました。

18	つばめキッズファーム事業	平成28年度より、市内の小学校15校を対象に、子どもたちが収穫の喜びを体験し、子どもたちを取り巻く農業や食の環境を学ぶとともに、自分の住んでいる地域を知るための農業体験について、補助金を交付しました。
19	Good Job つばめ推進事業	生徒がふるさとへの愛着や誇りと、自分の将来を設計し、自立して生きていく力を育むため、職場体験の実施日数を3日間に延伸し、キャリア教育の一層の充実を図りました。
20	教育指導費	児童・生徒の基礎学力の定着度を把握し、指導方法の改善を図るための学力検査（NRT・CRT）や学校生活の満足度検査（QU）を実施しました。なお、平成27年度に平成28年度中学校教科書改訂等に伴い、指導書等を購入したため、平成27年度比で13,403千円の減となりました。
21	学習支援充実事業	児童生徒の健全育成のため小中学校に学習支援員20名を配置し、各学校においてきめ細かな学習指導、特別活動及び生活指導等を行いました。
22	別室登校学習支援員配置事業	小池中・燕北中・分水中に別室登校児童生徒学習支援員を配置し、学校には登校できても教室に入ることのできない生徒に対して、学校と連携しながら個々に応じた学習支援を行いました。
23	小中学校教職員研修事業	教職員としての資質（授業力、生徒指導力、学級経営力等）向上を図るため、各種研修会48講座を教育委員会が主管して実施しました。平成28年度は、「AEDの使用」や「がん教育」に関する研修を行いました。
24	新潟大学教育学部とのパートナーシップ事業	児童生徒の「言葉の力」育成や、小中の連携強化を目指して、最新の専門的理論などの研究に携わる、新潟大学教育学部の教授・准教授を指導者として招き、国語・外国語において、計画的・継続的に指導助言を受けました。国語7校（松長小、吉田北小、全中学校）、外国語7校（燕東小、分水北小、全中学校）で授業研究を進めました。
25	中学生学力向上対策プロジェクト	学力向上を図るため、国語担当者会議（年11回）、数学担当者会議（年12回）、数学学力診断問題（年3回）、英語主任研修（年5回）、英語科教員研修（年19回）を実施しました。

26	教育センター運営費	教育関係職員等の研修などを実施する教育センター施設の管理運営を行いました。
27	適応指導教室事業	不登校児童生徒に対し、集団生活への適応指導やカウンセリング、学習指導等を行い、学校生活への復帰を支援しました。なお、中央公民館増築工事のためエンゼルルームが燕庁舎分館に一時移転したことによる光熱水費等の維持管理費及び平成27年度途中でたんぼぼの部屋（分水地区）の指導員を1名増員により平成27年度比2,483千円の増となりました。
28	言語・発達障がい通級指導教室運営費	言語や発達の特性に応じて子どもが積極的に学校生活を営むことができるよう、言語通級教室（燕西小・吉田小）・発達障がい通級教室（吉田南小）で専門的な指導を行いました。
29	子どもを育む推進事業	中学校区単位で絆スクール集会を実施し、いじめ見逃しゼロに対する意識の高揚を図りました。子どもを取り巻く環境の変化に対応するため、学校・家庭・地域の連携による課題解決について協議する場として燕市子どもを育む推進協議会を開催しました。なお、平成27年度に合併10周年を記念して、「泥かぶら」の観劇を実施したため、平成27年度比4,238千円の減となりました。
30	心の教室相談員派遣事業	中学校4校（燕中・小池中・燕北中・分水中）へ心の教室相談員を264回派遣し、生徒一人一人の相談内容に適切に対応するための事業を行いました。
31	科学教育推進事業	燕・弥彦科学教育センターと連携し、理数教育を中心とした研修体制を充実・強化することで児童・生徒、教師や市民の科学に対する意識向上を図りました。教職員に対する研修や、児童生徒や市民を対象とした科学に関するイベントを実施しました。
32	教育総務費（小学校費）	小学校施設の維持管理を行いました。
33	遠距離通学支援事業（小学校費）	遠距離通学児童に対してのスクールバスの運行を行い、またスクールバスを運行していない地区については補助金を交付することで、保護者負担の軽減と通学の支援を図りました。

34	教育振興費（小学校費）	経済的な理由により就学困難な児童の保護者及び、小学校の特別支援学級に在籍している児童の保護者等に対し、小学校でかかる費用の一部を助成しました。見学や体験などを行うことを目的として、外部施設等に出かけて学習するための支援を行いました。
35	理科教育等設備整備事業（小学校費）	児童に科学的な知識、技能を習得させるとともに、工夫創造の能力を養うため、国庫補助金1,482千円を活用し小学校の理科備品を購入しました。
36	小学校整備事業	燕北小学校プール底塗装改修工事（3,015千円）分水小学校自動火災報知設備等改修工事（12,444千円）等、各小学校施設の整備・修繕を行いました。
37	小中川小学校渡廊下改築事業	昭和52年に建設され、老朽化が著しい渡り廊下の改修工事を行いました。 ・設計監理業務委託料 767千円 ・工事請負費 24,874千円
38	吉田北小学校大規模改造事業	昭和 57 年度に建設され、外壁からの雨漏りなど校舎の老朽化が進み、大規模改造工事が必要であるため、設計業務を行い、同工事に着手しました。
39	教育総務費（中学校費）	中学校施設の維持管理を行いました。
40	遠距離通学支援事業（中学校費）	遠距離通学生徒対してのスクールバスの運行を行い、またスクールバスを運行していない地区については助成金を交付することで、保護者負担の軽減と通学の支援を図りました。
41	教育振興費（中学校費）	経済的な理由により就学困難な生徒の保護者及び、中学校の特別支援学級に在籍している生徒の保護者等に対し、中学校でかかる費用の一部を助成しました。見学や体験などを行うことを目的として、外部施設等に出かけて学習するための支援を行いました。
42	スポーツエキスパート活用事業	市内中学校の運動部活動に専門的な技術指導力を有する指導者を6人派遣し、運動部活動の振興と地域社会との連携を促進しました。なお、指導者を1人増員したため、平成27年度比148千円の増となりました。
43	理科教育等設備整備事業（中学校費）	生徒に科学的な知識、技能を習得させるとともに、工夫創造の能力を養うために、国庫補助金848千円を活用し中学校の理科備品を購入しました。

	44	中学校整備事業	分水中学校防火扉・シャッター設備改修工事(292千円)、吉田中学校校舎北側基礎改修工事(280千円)、小池中学校屋内運動場昇降口屋上防水等改修工事(1,296千円)等、各中学校施設の整備・修繕を行いました。
	45	小池中学校特別教室棟改築事業	平成27年度の特別教室棟改築により、不要となった旧特別教室棟及び付属渡廊下の解体を行いました。 ・監理業務委託料 648千円 ・工事請負費 51,853千円
	46	学校衛生管理費	児童・生徒及び教職員の健康保持のために、各種健康診断や環境衛生検査を実施するなど、保健衛生面からの教育環境の整備・充実を図りました。
	47	学校給食運営費	燕地区の小中学生約3,600人に学校給食を提供しました。 ・小学校429,999食、中学校246,488食 ・給食1食(小学校275円、中学校320円) ・年間給食回数(小学校188回、中学校184回) ・学校給食米87,531kg 3,065千円
	48	給食センター管理運営費	吉田・分水地区の小中学生約3,200人に学校給食を提供しました。 ・小学校402,573食、中学校191,090食 ・給食1食(小学校275円、中学校320円) ・年間給食回数(小学校188回、中学校186回)
	49	東部学校給食センター建設事業	学校給食法で定められた最新の衛生管理基準を満たし、アレルギー食に対応し、安全安心な学校給食を提供できる東部学校給食センターを建設しています。東部学校給食センターは、平成30年4月から燕地区の学校給食の提供を開始する予定です。 (平成27年度：実施設計、平成28・29年度：建設工事)
子育て支援課	50	保育園運営費	次の世代を生きる子どもたちが豊かで健やかに育つよう、公立保育園17か所(園児1,639名)と公立認定こども園2か所(園児202名)の保育を実施しました。なお、非常勤職員数の増加及び雇用時間延長などにより平成27年度比で39,161千円の増となりました。

51	保育園整備事業	「吉田北・粟生津保育園保育室冷暖房設備改修工事」11,532千円、「あおい保育園冷暖房設備改修工事」7,625千円、などを実施しました。
52	私立認可保育所経費	市内の私立保育園4か所へ園児367名の保育実施を委託しました。（343,110千円）市内の私立保育園に対し運営費の一部を負担しました。また、子ども・子育て支援交付金や新潟県特別保育事業補助金、保育対策総合支援事業費補助金の活用により、次の事業に対し補助金を交付しました。 ①運営費補助事業（1,655千円） ②延長保育事業（5,940千円） ③一時預かり事業（3,053千円） ④未満児保育事業（22,713千円） ⑤障がい児等保育事業（408千円） ⑥保育対策総合支援事業（3,200千円）
53	保育所広域入所委託事業	里帰り出産、保護者の勤務形態、家庭の事情等により市内の施設での保育が困難な児童のため、市外の公立施設に5名、市外の私立施設に14名、市外の事業所内保育施設に5名の保育を委託しました。該当者が増加したため、平成27年度比で5,236千円の増となりました。
54	私立認定こども園経費	市内の私立こども園2か所へ園児467名の保育実施を委託しました（255,621千円）。市外の私立こども園2か所へ園児2名の保育実施を委託しました（944千円）。子ども・子育て支援交付金や新潟県特別保育事業補助金、保育対策総合支援事業費補助金の活用により、次の事業に対し補助金を交付しました。 ①延長保育事業（5,373千円） ②地域子育て支援拠点事業（16,966千円） ③一時預かり事業（7,630千円） ④未満児保育事業（25,619千円） ⑤障がい児等保育事業（2,866千円）
55	大曲八王寺保育園外壁改修事業	老朽化が進んでいた大曲八王寺保育園の外壁等を改修し、保育環境を改善しました。

56	児童館運営事業	遊びを通して児童の健全育成を図り、情操を豊かにするための施設として、また、親子のふれあいの場、交流の場として、7か所の児童館の運営を行いました（来館者数：延べ159,420人）。
57	児童研修館運営事業	乳幼児や児童とその保護者を対象に各種教室や体験活動など、地域子育て支援事業を実施し、子どもたちの豊かな感性を育む場として、児童研修館の運営を行いました（来館者数：延べ40,065人）。
58	児童クラブ運営事業	就労等により、昼間保護者が家にいない小学1～6年生の児童を放課後に預かり、適切な遊びと生活の場を提供し、児童の健全育成と保護者の就労支援を推進しました（児童クラブ：16か所、放課後児童：737人）。
59	(仮称)燕西児童クラブ改修事業	燕西小学校区内で運営してきた『秋葉町児童クラブ』については、利用児童数に対して施設面積が狭く、これ以上の受け入れが難しい状況にあったため、平成27年度末に閉園した旧燕西幼稚園の園舎を改修し、(仮称)燕西児童クラブ（現：西小児童クラブ）として整備しました。
60	なかまの会管理運営費	異年齢の交流や、安全な居場所の確保のため、5か所のなかまの会の運営を行いました（利用児童数：延べ39,603人）。
61	地域子育て支援事業	保育園等に入園していない子育て家庭の育児相談指導と情報提供及び子育ての輪を広げるため、8か所の子育て支援センターの運営を行いました。また、小学校入学時子育て支援金（すこやか赤ちゃん誕生祝い金等支給事業）を支給しました（93件：19,500千円）。なお、子育て支援センターが1施設増え、すこやか赤ちゃん誕生祝い金の支給対象者が増加したため、平成27年度比で7,310千円の増となりました。
62	ファミリーサポートセンター運営事業	仕事と育児の両立を支援するため、育児を受けたい方、援助を行いたい方が会員組織として相互援助活動を行うファミリーサポートセンターの運営を行いました。（会員数：依頼会員220人・提供会員89人・両方会員56人、活動件数：幼稚園・保育園などの迎え及び帰宅後の預かりなど1,253件）

63	病児・病後児保育事業	小児科医院に併設した病児保育室「あおぞら」で、病気や治療のため保育園等での集団保育ができない児童を一時的に預かり、保育と看護を行うことにより、保護者の仕事と育児の両立を支援しました。平成28年度からは、燕・弥彦地域定住自立圏共生ビジョンによる弥彦村との連携もスタートし、利用者の対象を弥彦村の住民にも広げ、さらに対象年齢の上限も小学校3年生から小学校6年生に拡大しました。
64	地域子育て支援講座事業	同世代の子どもを持つ母親同士が子育ての不安や悩みを話し合い、自分に合った子育てを考えることを目的とする「BPプログラム」と「NPプログラム」をそれぞれ実施しました。0歳の子どもを持ち、初めて子育てをする母親を対象とした「BPプログラム」を1講座（全4回）、1～3歳の子どもを持つ母親を対象とした「NPプログラム」を1講座（全6回）開催しました。
65	子育てつばめメール配信事業	子育てつばめメールやすこやか家族応援情報ページにより、相談窓口や支援制度、イベントなど、子育てに関する情報を配信し、子育て支援を行いました（子育てつばめメール登録件数：735件、やすこやか家族応援情報ページアクセス数：28,009件）。なお、やすこやか家族応援情報ページの作成は平成27年度で完了し、その後は職員が更新作業を行っているため、626千円の減となりました。
66	幼稚園運営費	教育委員会の定めた教育課程やきめ細やかな指導方針に基づいて、市内2か所の公立幼稚園で保育を実施しました。なお、平成28年度から旧燕西幼稚園と旧燕保育園が統合して燕こども園になり、公立幼稚園が1か所減ったことにより平成27年度比で2,764千円の減となりました。
67	幼稚園総務費	市内2か所の公立幼稚園の非常勤職員賃金等を負担し、施設の維持管理を行いました。また、市外の幼稚園に区域外就園した児童のための施設型給付費負担金を支払いました。なお、市内公立幼稚園が1園減少したことによる減額要素がありますが、施設型給付費負担金において、燕市民が通園している市外幼稚園のうち、新制度へ移行した園が1園から3園に増えたため、平成27年度比で3,559千円の増となりました。

	68	私立幼稚園就園奨励事業	市内に住所があり、私立幼稚園に在園している満3歳以上児の保護者で、市民税額が基準額以下の世帯に補助金を交付しました。 （3歳児1名、4歳児1名）なお、新制度による施設型給付に移行した幼稚園の増加により、幼稚園就園奨励費の対象が減少したため、平成27年度比で1,306千円の減となりました。
社会教育課	69	勤労青少年ホーム管理運営費	吉田地区勤労青少年ホームの施設維持管理を行いました。なお、この度燕地区勤労青少年ホームを取壊したため、平成27年度比で2,255千円の減となりました。
	70	生涯学習推進費	第1次燕市生涯学習推進計画（平成20年度～平成27年度）に係る目標値の達成状況の総括及び平成28年3月に策定した第2次燕市生涯学習推進計画（平成28年度～平成34年度）の平成28年度の目標値について協議するため、燕市生涯学習推進協議会（1回）を開催しました。また、市民の主体的な学習活動を支援するため、団体の活動状況、市の生涯学習に関する情報を、燕市生涯学習サイト「まなびネット」を通じ積極的に配信しました。さらに、旧人材バンク事業「わがまちの達人」「まちのせんせい」の統合・再構築を行い、生涯学習人材バンクとして平成28年10月から利用開始し、知識や技能を有する人を講師として登録・公開することにより、学習成果を地域に活かす機会を創出しました。 なお、平成27年度は第2次燕市生涯学習推進計画の策定の影響により印刷製本費426千円（冊子500部、概要版3,000部）が増加しましたが、平成28年度は予算計上していないことに加え、生涯学習推進協議会謝金と通信運搬費が平成27年度と比べて減額になったため、平成27年度比で455千円の減となりました。
	71	社会教育総務費	社会教育行政に係る社会教育委員の会議（2回）を開催しました。また、県内社会教育委員との情報交換・研究協議に係る研究集会等へ参加しました。なお、平成27年度に吉田地区婦人会が解散したことにより、本婦人会分の補助金が減になったことなどにより、平成27年度比で313千円の減となりました。

72	成人式事業費	平成29年3月19日（日）、新成人842人（対象者：平成8年4月2日～平成9年4月1日生まれで、市内在住または以前に住んだことがある人等）を燕三条地場産業振興センターに招き、成人式を行いました。
73	家庭教育推進事業	幼稚園、保育園、こども園・小中学校が主催する家庭教育講演会（32回）の講師謝礼の助成を行いました。また、食育推進事業として親子を対象にした親子食育講座（2回）を開催しました。
74	中央公民館管理運営費	公民館運営審議会委員会議（1回）の開催や県内公民館活動に係る研究大会に参加しました。また、中央公民館は平成27年度に耐震改修工事により6ヶ月間休館していましたが、平成28年度は通常運営に戻ったことで2,658千円の増となりました。
75	地区公民館管理運営費	吉田・分水公民館の施設維持管理を行いました。また、老朽化していた吉田公民館の机・イス等を更新し（8,761千円）、施設利用者の利便性の向上を図りました。
76	中央公民館事業	パソコン講座（12回）、市民教養講座（ピアノ講座、彫金講座等11講座12コース）、つばめ目耕塾（10回）、燕大学（3回）、子ども教室（5教室）、風の子くらぶ等の講座を開催（報償費：2,715千円）しました。また、子どもの体験活動を支援するため、指導員及び臨時職員を各1名配置し、報酬・賃金など3,544千円を支出しました。
77	地区公民館事業	吉田・分水公民館で利用団体の育成及び発表の場として、文化祭・芸能発表会を行うとともに、吉田公民館では県立吉田病院との共催による健康講座（4回）・子ども教室（3教室）、分水公民館では子ども教室（6教室）を開催しました。
78	分館管理運営費	中央公民館8分館（小池・小中川・松長・川前・南・西燕・藤の曲・東）及び吉田公民館2分館（粟生津・吉田北）の施設維持管理を行いました。また、西燕公民館階段修繕（1,944千円）、小池公民館調理室床張り工事（756千円）などを行いました。吉田北・粟生津体育文化センター、西燕・小池公民館の管理運営については、指定管理委託を行いました。

79	分館事業	中央公民館6分館において、地域に密着した健康づくり教室、書道教室、料理教室、文化祭等を行いました。（小中川：10講座266回、松長：3講座80回、川前：7講座211回、南：3講座70回、藤の曲：1講座24回、東：2講座48回）。主な支出は講師謝金（907千円）です。
80	中央公民館改修事業	安全・安心な市民の生涯学習活動の拠点として、また、災害時には避難施設として市民の安全を確保するため、中央公民館（平成27年度：耐震改修などの工事完了）に隣接した燕市勤労青少年ホームを取壊し（解体工事費32,110千円）、その跡地に中央公民館機能及び避難所機能を充実する施設を増築（建設工事請負費338,278千円、設計監理業務委託料7,949千円）しました。
81	市民交流センター管理運営費	燕市社会福祉協議会に施設管理（日直、夜間管理、樹木管理、管内清掃等）を委託（4,920千円）するとともに、トイレ配管改修工事及び、防犯カメラ増設工事（3,348千円）を実施しました。
82	吉田北体育文化センター受変電設備等改修事業	老朽化した受変電設備を更新するとともに、老朽化した屋内消火栓設備をパッケージ型消火設備に入替えました。
83	分水公民館防水等改修事業	屋上の雨水を排出する躯体内部に設置している樋が破損し、施設各所に雨漏りが生じていたため、新たに躯体外部に樋を設置するとともに、雨漏りで傷んだ内装を改修しました。
84	図書館管理運営費	「燕市立図書館」、「吉田図書館」、「分水図書館」の3図書館を一括して人件費を含め指定管理委託を行いました。また、図書館協議会を2回開催し図書館運営について意見をいただきました。なお、3図書館合わせて書架を6台購入したことにより備品購入費が991千円増加しましたが、平成27年度には、燕市立図書館の空調設備の設計業務委託費を計上していたことや、修繕料等が平成27年度より減額となったため、相殺して平成27年度比で2,539千円の減となりました。

85	青少年育成センター事業	青少年への街頭補導活動及び社会環境浄化活動等を行いました。 また、三条地域若者サポートステーション燕サテライトとして実施するニートの若者対象の相談事業（108件）、職場見学・ジョブトレーニング・各種セミナーなどの業務を行うとともに、相談者の家族やボランティア等を対象に講演会（2回）を開催しました。
86	文化会館管理運営費	文化会館の光熱水費（6,122千円）、ESCO事業委託料（4,778千円）、清掃業務委託（2,695千円）、照明設備保守管理業務委託（756千円）等、施設の維持管理を行いました。平成28年度は、展示パネルや屋内消火栓設備の修繕工事（1,997千円）とワイヤレスマイクやデジタルミキサーなどの故障に係る関連機材を更新（3,933千円）したことにより、平成27年度比で5,945千円の増となりました。
87	自主事業	自衛隊音楽隊コンサートin燕・弥彦（574千円）、小学校合同音楽鑑賞会（6,117千円）、NGT48コンサート（6,504千円）、落語公演二人会（3,041千円）等の市民全世代を対象とした多様な事業の開催により、平成27年度比1,446千円の増となりました。また、自主的な文化活動を行う市民団体（1団体）に対して、事業費助成（230千円）を行いました。
88	文化会館トイレ改修事業	文化会館トイレ（北側トイレ、地下トイレ、多目的トイレ）の洋式化と内装の改修工事を行いました。 ・トイレ洋式化改修工事 29,502千円 ・設計監理業務委託 2,201千円
89	吉田ふれあいセンター管理運営費	施設管理に係る臨時職員賃金（1人1,678千円）、光熱水費（1,934千円）、施設維持に関する日直・夜間代行業務（1,938千円）、浄化槽維持管理業務委託（525千円）などを行いました。なお、光熱水費等が平成27年度より減額になりましたが、平成28年度に非常灯バッテリー取替工事等を行ったため、平成27年度比766千円の増になりました。

90	分水良寛史料館管理運営費	本館の運営に係る館長（１人）報酬（1,236千円）、臨時職員賃金（2,001千円）、また、維持管理に係る警備業務委託（227千円）、樹木管理委託（260千円）などを行いました。平成27年度に空調修繕を行ったため、平成27年度比で208千円の減になりました。
91	分水良寛史料館展示事業	展示事業に係る展示品借用（報償費300千円）や広告費（107千円）等に支出しました。また、平成27年度に支出していた動産保険料や展示に係る費用は、中越地域文化振興事業「明許繰越」としたため、平成27年度比で876千円の減となりました。 春の特別展「良寛墨宝展」（入館者382人） 夏の企画展「良寛に学ぼう展」（入館者370人） 秋の特別展「良寛墨宝展」（入館者369人） 冬の企画展「郷土作家作品展」（入館者236人）
92	長善館史料館管理運営費	本館の運営に係る館長（１人）報酬（1,440千円）、臨時職員賃金（1,101千円）及び保守管理委託に係る警備業務委託（244千円）、浄化槽維持管理業務委託（136千円）などを行いました。 なお、平成28年度に空調設備故障による取替工事（工事請負費9,863千円）を行ったことから、平成27年度比で8,605千円の増となりました。
93	文化財保護事業	市指定文化財の若宮社の保存修理事業としての補助金（100千円）や文化財説明板の修繕（180千円）等のほか、水道の塔の写生会講師謝礼や「つばめ文化財だより」の発行など文化財のPRを行いました。平成28年度は文化財説明板の修繕が増えたことと隔年実施の「タぐれの岡」松枯れ防止業務委託（378千円）を実施したことで、平成27年度比で506千円の増となりました。
94	埋蔵文化財事業	埋蔵文化財保護措置として、市内遺跡の発掘調査（本調査/整理１遺跡：22,309千円、試掘：149千円）を行うとともに、遺跡出土品展を開催し、文化財の公開活用に努めました（来場者704人）。また、文化財資料の適切な保存管理のため、旧分水学校給食センターを文化財収蔵庫に改修しました。（21,900千円） これにより、平成27年度比で19,988千円の増となりました。

95	文化振興事業	文化団体（文化協会、分水高校、郷土史研究会連合会）に対する活動支援、美術展覧会及び良寛書道展の開催や「郷土史燕」（400部）、「文芸つばめ」（500冊）を刊行しました。平成27年度は、つばめっ子かるたを1,000部製作したため、平成27年度比で1,276千円の減となりました。
96	体育振興費	燕市体育協会（補助金：4,409千円）とスポーツ少年団（補助金：3,406千円）の育成を図るとともに、スポーツ推進審議会の運営（45千円）と全国大会出場激励金の交付（910千円）を行いました。また、スポーツ推進委員（報酬：498千円、研修費負担金：245千円）との連携により、地域スポーツの振興に努めました。
97	生涯スポーツ振興費	燕市体育協会にスポーツ大会等業務委託（4,001千円）、スポーツ教室事業委託（4,200千円）を行うとともに、健康づくり教室やニュースポーツ等の大会を開催し、市民の健康づくり並びに競技力向上に努めました。また、子どもの体力向上サポート事業委託（ヘキサスロン）1,830千円により、子どもの体力向上を図りました。平成28年度は、子どもの体力向上サポート事業実施校の増（2校）やマラソン大会などの事業を体育協会へ委託したことにより、平成27年度比で2,159千円の増となりました。
98	東京ヤクルトスワローズカップ少年野球交流事業	東京ヤクルトスワローズ球団と縁の深い4都市の交流事業として、夢と感動を与え野球を通じた交流を図り、小学生のスポーツ振興と青少年の健全育成を目的に、第4回東京ヤクルトスワローズカップ少年野球交流大会を宮崎県西都市において、ヤクルト球団の現役選手からも参加して頂き開催され、燕市代表チームを派遣しました。大会が沖縄県浦添市開催から、宮崎県西都市開催になったことにより、平成27年度比で174千円の減となりました。
99	東京五輪キャンプ地誘致事業	東京オリ・パラキャンプ地誘致PRパンフレット英語版（100冊）、仏語版（100冊）、日本語版（100冊）を作成しました。また、誘致推進研修会として水泳の寺川 綾さんを招聘し、講習会や講演会を開催しました。誘致推進研修会委託料減のため、平成27年度比で512千円の減となりました。

100	ホストタウン推進事業	東京オリ・パラホストタウン構想の登録により、モンゴル国パラアーチェリー選手団とアーチェリーを通じたスポーツ（体験会、合同練習、見学会）や異文化（講座、教室等）などの交流を図りました。また、モンゴル語通訳によるモンゴル語入門講座を2回開催しました。
101	JCYレディースサッカーフェスティバル開催事業	女子中・高校生年代選手の活性化と選手のレベルアップ、選手間・指導者間の交流促進などを目的に、日本クラブユースサッカー連盟（JCY）が主催し、燕市が共催した、「JCYレディースサッカーフェスティバル2016」を8月8日から11日の4日間、吉田ふれあい広場において開催いたしました。（参加数13チーム、平成27年度10チーム）バスの借上が延べ20台から延べ4台に減ったことにより平成27年度比で982千円の減となりました。
102	体育施設管理運営費	燕市体育センターほか24体育施設の指定管理委託（238,511千円）を行いました。また、直営管理の屋外プール3カ所の施設管理に係る各種保守点検・維持管理業務委託を行いました。なお、平成27年度にアーチェリー場整備用地（12,258.48㎡）を土地開発基金より429,500千円で購入したことから、平成27年度比で434,700千円の減となりました。
103	三条・燕総合グラウンド施設組合管理運営費	三条・燕総合グラウンド（屋外施設の野球場4面、テニスコート9面、陸上競技場）の運営を三条市と共同で行いました。平成27年度に陸上競技場全天候化改修工事を行ったことから、平成27年度比で11,799千円の減となりました。
104	分水武道館耐震改修事業	安全・安心な市民のスポーツ活動の拠点として、また、災害時には避難施設として市民の安全を確保するため、施設の耐震補強等改修工事を行いました。施設の耐震補強等改修工事168,981千円（建築：130,122千円、電気：13,295千円、機械：25,564千円）、工事監理業務委託（3,715千円）を行いました。平成27年度は、工事設計業務委託のみのため、平成27年度比で164,674千円の増となりました。

105	スポーツパーク管理棟 外装等改修事業	経年劣化による損傷が著しいスポーツパーク管理棟外装改修とトイレの洋式化、排水の下水道接続工事などを行いました。外装改修工事34,058千円（建築：22,359千円、電気：3,113千円、機械：8,586千円）、内装改修工事：1,760千円、設計監理業務委託：3,780千円を行いました。
106	分水プール改修事業	分水プール（50mプール）のプール槽防水モルタル撤去工事や防水塗装工事を行いました。濾過機改修工事は、繰越事業として平成29年度も実施します。 プール槽防水工事 27,785千円 濾過機改修工事 3,000千円
107	開放施設管理費	市民のスポーツの場として、市内小中学校の体育館及びナイター設備を含むグラウンドの開放を行いました。利用者の利便性を高めるため、受付や日程調整の業務を、体育協会へ委託したことにより、平成27年度比で1,196千円の増となりました。

Ⅲ 点検・評価の結果

【平成 28 年度評価対象事業】

平成 28 年度 教育行政評価報告書

＜知・徳・体を育成する教育の推進＞

点検項目	Jack & Betty プロジェクト
28 年度達成目標	小中学校の連携による燕市の特色ある英語教育の定着と改善を図る。魅力ある英語授業により生徒の英語力向上に努め、Jack & Betty 教室の開催や授業の体制を整える。
目標の達成状況	Jack & Betty 教室に参加する児童生徒の教室での活動内容に対する満足度は高く、興味をもつ子どもたちは増えている。また、保護者も同様である。参加生徒数は昨年度よりやや減少（目標 100 人に対し 76 人）した。
取組の概要	平成25年度からスタートし、小学校5年生から中学校3年生までの5年間の一貫した外国語教育の充実、さらに英語の力を伸ばしたい児童生徒への英語教育強化の推進を図り、グローバルな人材の育成を目指した取組の実施。 ・ JTE、ALTの小学校、中学校及び幼稚園・保育園における英語教育の充実。合わせて市内小中学校英語科教員研修の実施。 ・英語力をさらに伸ばす機会の充実として、希望者を対象としたJack & Betty教室による英会話を中心とした教室の開催。 ・ 小学校1年生から4年生までを対象とした夏休み英会話教室の実施。 ・ 小学校5年生から中学校3年生までの希望者を対象とした英語スピーチコンテスト兼海外派遣選考を行い、毎年12名を親善大使として海外に派遣。
自己評価	小学校15校に日本人外国語活動指導助手（JTE）5名を派遣していることで英語に興味をもつ児童が増えている。教室参加者数は昨年度より減少したが、意欲のある子どもたちの参加が多い。 Jack & Betty教室への参加募集は、市内全小学校5～6年生、中学校1～3年生の児童生徒全員に案内を送付し、また、市のホームページでも募集を行った。今年度は、さらに各校配置のJTEに校内での募集PRを依頼して参加者の増加につなげている。 また、教室では英語検定を3回実施し、小学生で準2級合格者もで （次ページに続く）

	るなど、質の向上につながった。
評価委員の評価	この事業は、保護者には浸透してきている事業であるが、広く市民に知ってもらうためには、成果を発表する場面等をうまく情報発信する必要がある。 燕市の産業が世界に向けて、事業を展開しているので、当然ながらの取り組みであり、評価している。 会場が吉田地区のみであるので、今後は燕地区や分水地区でも開設して、遠くて通うことができない子どもたちへの対応を期待する。
今後の方向性	Jack & Betty教室については、平成29年度から対象を小学校4年生に拡充して教室参加者を募り、年間25回の教室を開催する。また、学校や市の広報誌等を通じてPR活動を行うとともに、英語スピーチコンテストや海外派遣帰国報告会等では、来観者にJack & Bettyプロジェクトの取組を知っていただく機会となるよう内容を工夫していく。教室の会場については、現在行っている場所（吉田勤労青少年ホーム）が手狭であることも踏まえて、燕庁舎の会議室等を活用していく。

【所管：学校教育課】

<知・徳・体を育成する教育の推進>

点検項目	Good Job つばめ推進事業
28 年度達成目標	各中学校が実施する職場体験の実施日数を3日以上とし、平成 29 年度は 5 日間を目標に計画する。一方で中学生の全国学力・学習状況調査による「将来の夢や希望を持っている」に肯定的評価（「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」）をした生徒の割合が 75 パーセント以上になることとする。
目標の達成状況	各中学校が実施する職場体験の実施日数は平均で 3.6 日間であったが、中学生の全国学力・学習状況調査による「将来の夢や希望を持っている」に肯定的評価をした生徒の割合は 71.5 パーセントで、75 パーセントとしていた目標を下回った。
取組の概要	家庭や地域、産業界と連携して中学校の職場体験活動の充実を図り、キャリア教育を推進することで、ふるさとへの愛着と誇りを醸成し、自分の将来を切り拓き自立して生きていく力を育成する。
自己評価	市内中学校 5 校の職場体験の実施日数は、平成 27 年度は1日間 2 校、2 日間 3 校で、1 校当たり平均 1.6 日間であったが、平成 28 年度では 3 日間が 3 校、4 日間 1 校、5 日間 1 校で、1 校当たりの平均は 3.6 日間と大幅に増加している。また、平成 28 年度を取組状況は、市内中学校 1・2 年生の生徒 1,315 名中 1,066 名がこの事業で職場でのキャリア教育を体験し、協力いただいた受入れ事業所数にあっては、延べ 376 事業所であった。 一方で、中学生の仕事に対する意識にあっても、体験前は「仕事は大変だろうな。」と感じていた生徒が、体験を通して「仕事は楽しいもの、やりがいのあるもの。」と感想を述べており、「保護者に対して、“ありがとう”をたくさん言いたい。」「家の人は人を幸せにして帰ってきていることが分かった。」と勤労観・職業観の変容が見られた。また、受入れ事業所の確保の面からは、「実行委員会」を設立したことによって、受入れ事業所数の増加、事業所に関わるデータの整理が効率的に行われたものと思われる。 今後は、地域の方々との交流を深めることにより、郷土への愛着と誇りをはぐくむ事業にしていきたい。
評価委員の評価	サラリーマンの家庭が多く、親が仕事をしている姿をなかなか見ることができない中、子どもたちに仕事をする意義を伝え、将来、目標を持って仕事を選んでくれるスタートとなる重要な事業であ （次ページに続く）

	る。 受入れ事業所には負担になることが多いと思うが、376 もの事業所の協力をいただいております、評価に値する。 工場の祭典やテレビ放送などで、世界に通ずる高い技術を持った燕市の産業を身近に感じることが出来ていると思うが、今後、各職場に入りやすい環境を整えることで、子どもたちの夢の選択肢が広がると思う。 事前学習などで、生徒全員を対象に、燕市の産業についての理解を深めるための研修を行ったらよいのではないかと思います。
今後の方向性	今後は、全中学校で 5 日間の職場体験を行うことができるよう、燕市及び近隣の事業所に広く協力を呼び掛け、一方では、事業者が不安なく生徒を受け入れられることができるよう、事業者向け説明会を定期的を開催していく。本事業の趣旨や受け入れの際の留意点等をご理解いただくとともに、事業者の意見・要望を検討することを通して受入れ事業所が拡大するよう努める。そのことにより、中学生が体験先を選択するにあたり、様々な業種から自分の希望する業種を選ぶことができるようにしていく。 また、市内中学校 1・2 年生の生徒全員の受け入れ先を確保するために、効率的に事業を推進する組織の構築と活動中の安全確保のための交通手段等の確保もしていく。 さらに、学校でも、職業講話やマナー講習会などの事前準備と職場体験発表会などの事後学習を行うことで、生徒にとって深い学びとなるよう事業の改善を図っていく。

【所管：学校教育課】

＜知・徳・体を育成する教育の推進＞

点検項目	つばめキッズファーム事業
28 年度達成目標	農業を通じて、地域の方や地元農家との交流を深めるなど、小学校における農業学習を推進する。
目標の達成状況	農業体験を通じて、子どもたちが作物を育てたり収穫の喜びを体験したりする取り組みに加え、地元農家や地域のボランティアと収穫祭を実施して、生徒が作った農作物を調理して皆さんに振る舞ったり、また、味噌づくりや若手農業者との交流会を行うなど、これまでにない取組を実践できた。また、収穫祭や発表会では土地改良区の方や農家の方を来賓に迎え、学校での取組をご覧いただくことができた。
取組の概要	小学校における農業体験を推進し、子どもたちに農業の楽しさ、厳しさ、感動などを実際に体験する機会とする。 農業に親しみを感じ、「次世代の担い手」の育成のきっかけや小学生のキャリア教育に結び付く事業展開を行う。
自己評価	平成 28 年度から小学校で各学校が特色を生かした取り組みを実施してきた。小学生版のキャリア教育として農業に特化した取り組みであったが、学校で畑や稲作を媒体に地域の皆様と交流したり、また、越後味噌からの協力により新たに味噌づくりにチャレンジしたり、小学生にとって貴重な体験を積むことができた。 この事業は 10 年間にわたり実施する予定としており、長期的な視点で新しい要素を取り入れながら事業内容を工夫して実施していく。
評価委員の評価	農業を知らない、土に触れることがない生徒がたくさんいるので、自然に触れるという経験だけでも素晴らしいと思う。 口から入るものが、栄養になって、健康な体や心を育てるという所まで話が広がることを希望する。 10 年間という期間限定ではあるが特色ある事業であり、今後、PTA を巻き込んでいければさらに発展するのではないかなと思う。 （次ページに続く）

今後の方向性	初年度に実施した取組みをさらに発展させ、各学校の特色ある事業展開となるよう土地改良区からの寄付を活用して実施していく。 また、土地改良区や地域への事業周知に努め、学校での実践では関係の方々を巻き込んだ活動へ発展させるなど、初年度に引き続き、子どもたちに農業の楽しさ、厳しさ、感動などを実際に体験する機会となるよう事業を推進していく。
--------	--

【所管：学校教育課】

<安心して産み育てられる子育て支援>

点検項目	市立保育園保育室冷暖房設備設置事業
28 年度達成目標	冷暖房設備が未設置の保育室に空調設備を整備し、全園児に公平な保育環境と安全確保を図る。
目標の達成状況	○冷暖房機器整備率 → 92%（設置済数 92／保育室数 100）
取組の概要	平成 28 年度に、冷暖房設備が未設置となっている保育室（4、5 歳児）に設備を整備するため、必要な設計管理及び設置工事を行う。ただし、適正配置計画により統廃合を行う予定のある「小池保育園、大曲八王寺保育園、水道町保育園」と民営化の予定のある「つぼみ保育園」は当事業より除く。
自己評価	平成 28 年度末の空調設備未設置保育室数は、今後統合予定の「小池保育園（2）、大曲八王寺保育園（2）、水道町保育園（2）」と民営化を予定する「つぼみ保育園（2）」の 8 部屋で、設置事業計画では除外としてあり、今事業の市立保育園保育室冷暖房設備設置事業は平成 28 年度で終了となる。
評価委員の評価	統合予定と民営化予定の 8 部屋以外は、設置完了ということで、適正に事業が実施されたと思う。 未設置の所については、エアコンの付いている遊戯室をうまく工夫して利用しているので、引き続きうまくケアをしていただきたい。
今後の方向性	平成 29 年度において、内閣府の地方創生推進交付金を利用し、小池保育園（2）・大曲八王寺保育園（2）・水道町保育園（2）の 6 部屋については、空調設備を設置する予定である。 また、つぼみ保育園については民営化を予定していることから空調設備の設置は未定である。

【所管：子育て支援課】

<安心して産み育てられる子育て支援>

検項目	市立児童クラブ延長保育及び利用対象学年補充事業
28 年度達成目標	働く者、特に女性の就業継続のために保育園と近い利用時間を確保し、保護者のニーズに沿うことで、就労支援を図る。
目標の達成状況	○対象学年の拡充 → 5・6 年生の登録は全体の 3.2% (21 人/666 人) ○延長保育 → 見込みは 90 人/月だったが、結果 67 人/月
取組の概要	平成27年6月、児童クラブを利用している保護者に対して児童クラブの利用に関するアンケートを実施し、利用ニーズを把握。アンケート結果を基に、要望の多かった受け入れ児童の対象学年と開設時間について平成28年度から拡充した。 【対象学年の拡充】 小学校4年生までを小学校6年生へ拡大する。 【開設時間の延長】 (平常時) 放課後～18時30分を放課後～19時00分へ (学校休業時) 8時00分～18時30分を7時30分～19時00分へ
自己評価	【利用対象学年拡充】 5年生及び6年生も利用可能としたが、平成 28 年度末での登録児童数は、5年生が 20 人、6年生は 1 人で全体の 3.2%の (21 人/666 人) 登録児童数に留まった。高学年になると下校の時間も遅くなることや、習い事等の事由により児童クラブ利用の必要性が少なくなると思われる。 【延長保育事業】 月平均 90 人の利用と見込んだが実績で平成 28 年度は 67 人/月であった。ニーズ調査では 51%が延長保育を求めているが、見込み人数までの利用がなかった。しかし、就労の関係で必要な家庭は間違いなくあることから、利用人数の多い少ないで図ることのできない事業と思われる。
評価委員の評価	目標人数に対して、結果的に利用人数が少なかったが、利用する側からするととてもありがたい事業である。 また開設時間を午前 7 時 30 分からに変更したことは、仕事に出 (次ページに続く)

	かける人にとって、非常にありがたいのではないかと思います。 利用対象年齢を6年生まで拡大したことの成果は、これから出てくるのではないかと思います。 特別支援学級の生徒にも丁寧に対応しているので、これからも引き続き丁寧な対応をお願いしたい。
今後の方向性	利用人数等に囚われず、今後も保護者のニーズに注視し、児童クラブのサービス向上に努める

【所管：子育て支援課】

<安心して産み育てられる子育て支援>

点検項目	病児・病後児保育事業
28 年度達成目標	病児保育室「あおぞら」にて病児・病後児保育を行い、保護者の仕事と子育ての両立を支援する。 ・成果指標① 病児保育室「あおぞら」利用者数の目標 1,000 人 ・成果指標② 弥彦村からの利用者数の目標 100 人
目標の達成状況	目標には達していないが、概ね順調であり、利用者数は平成 26 年度の開始時から増加し続けている。
取組の概要	平成 26 年 4 月 10 日から病児保育室「あおぞら」の運営が開始され、病気や治療中のため保育園等での集団保育ができない児童を一時的に預かり、保育と看護を行うことにより、保護者の仕事と子育ての両立を支援している。 平成 28 年度からは、燕・弥彦地域定住自立圏共生ビジョンによる燕市と弥彦村との連携もスタートし、利用者の対象を弥彦村の住民にも広げ、さらに対象年齢の上限も小学校 3 年生から小学校 6 年生に拡大している。 連携における燕市と弥彦村の役割分担は、燕市が事業を実施し、補助金の交付申請も行う。補助金を超える負担は、年度末の利用者数の実績に応じて、燕市と弥彦村で負担する。
自己評価	病児保育室「あおぞら」の利用者数は、目標値 1,000 人に対して、平成 26 年度（事業開始年度）は 462 人、平成 27 年度は 624 人、平成 28 年度は 735 人と、実績は順調に伸びている。 平成 28 年度からは、燕・弥彦地域定住自立圏共生ビジョンにより燕市と弥彦村の連携がスタートした。連携により弥彦村からの利用がさらに伸びるものと見込んでいたが、実績では連携する前よりも減少している。 この事業は、病気や治療中のため集団保育ができない児童を、一時的に預かり、保育と看護を行うものであるため、必ずしも利用者数が増えることが良いことではないが、利用の事前登録については、引き続き増加を図っていきたい。（例：燕市では入園式の日、新入園児だけでなく在園児にも事前登録票と資料を配布している。）
評価委員の評価	この事業は、目標の 100% 達成が必ずしも良いというものではない。 利用人数が、徐々に増えているのは、病児・病後児保育が広がってきたと捉えることができる。 （次ページに続く）

	ぜひ定住人口増加のPR材料にしていきたい。 今は、吉田地区のみであるが、出来れば各地区ごとに設置していただきたい。
今後の方向性	この事業では、国・県から市へ交付される補助金に上乗せする形で事業者へ委託料を支払っているが、それでもなお、しばらくの間は、事業者の年間収支は赤字になることが見込まれている。 このような状況のため、引き受けてくれる小児科医を探すことはきわめて困難であり、1か所の開設に留まっている状況である。 また、平成28年度において、最も利用が多かったのは9月で、その利用人数は74名であり、9月における1日あたりの平均利用人数では3.7名である。 1日あたりの定員である8名に達することは、まれであるため、年間収支の関係上、新規の開設は現状では困難であるが、今後の利用人数の推移に注意し、検討していくこととする。

【所管：子育て支援課】

＜心豊かな生涯学習・文化活動の充実＞

項目	燕市生涯学習人材バンク制度再構築事業
28 年度達成目標	既存事業である「わがまちの達人」「まちの先生」を統合・再構築し、「燕市生涯学習人材バンク制度」へリニューアルすることで情報の一元化を行い登録の促進を図るとともに、登録者に市の教養講座等の講師や地域団体への派遣など活躍の場を提供することにより、学習の成果を積極的に地域に還元し活動人口の増加を図る。 ・講師登録人数：50 名 ・利用者数：100 名
目標の達成状況	既存事業である「わがまちの達人」「まちの先生」を統合・再構築し、「燕市生涯学習人材バンク制度」として平成 28 年 10 月 1 日より運用を開始し、児童館・学校等から活用いただいた。 ・講師登録件数：87 件・69 名 ・利用件数：8 件・250 名 ※平成 28 年度末実績
取組の概要	・「わがまちの達人」「まちの先生」の登録者へ「燕市生涯学習人材バンク制度」の事業周知・講師登録を案内するとともに広報・ホームページ・チラシを通じて、登録者を募集。 ・事業実施要綱を作成し、利用申請書等の各様式を整備。 ・登録講師リストを作成し、ホームページや公民館・児童館・保育園等の関係公共施設に設置。 ・平成 28 年 10 月 1 日より運用を開始。 ・公共施設への資料設置のほか、まちづくり懇談会でまちづくり協議会に事業について周知するとともに活用をお願いした。また、「定例校長会」や「地域に根ざす学校応援団事業研修会」等で各学校長・地域コーディネーター等にも同様にお願いした。（他、保育園長会・なかまの会・児童クラブ） ・新潟県生涯学習人材システム「う・う・ネット」へ希望する講師の情報を掲載することで、活用範囲の拡大を図った。
自己評価	講師登録者数、利用者数ともに目標値を達成したものの、年度中途からの運用開始ということもあり、市民への事業定着不足を感じた。今後、まちづくり協議会等を通じて人材バンクのさらなる事業周知を図り、市民の利用実績に繋がるよう努力する。
評価委員の評価	昨年度半年間で、利用件数 8 件、利用人数 250 名というのは、 （次ページに続く）

	多いと思う。 登録者が 87 人いるので、その方々がフル活用できるような仕掛けを考えてほしい。 また、ものづくりをしている職人の方々から登録していただければ、さらに魅力がアップすると思われる。 人材発掘のPRも必要であるが、人材バンクの利用拡大のPRが重要であり、市民が気軽に頼めるような工夫をしてほしい。
今後の方向性	さらに、「生涯学習人材バンク制度」の周知・啓発を図り、講師登録及び活用実績の増加に努める。 また、引き続き新潟県生涯学習推進センター「ラ・ラ・ネット」と登録講師情報の共有を図るとともに、新潟市が中心市となる連携中枢都市圏構想との連携協議を行い、周知機会の増進を検討する。 加えて、「生涯学習人材バンク」の利用につなげるため、ホームページで活用実績を公開する。

【所管：社会教育課】

<健全な心と体を支えるスポーツの推進>

点検項目	子どもの体力向上サポート事業
28 年度達成目標	市内小学生男女の体力・運動能力が、全国体力・運動能力テストの全8項目において県平均を上回る状態にする。
目標の達成状況	燕東小学校、燕南小学校、燕北小学校、小池小学校、吉田小学校、吉田南小学校、吉田北小学校の 7 校でヘキサスロンを実施。実施前と実施後の成績では、実施後の成績が確実に向上している。
取組の概要	・テレビゲームなどの普及により子どもたちが屋外で走り回って遊ぶなどの機会が激減、それに伴い将来の燕市を担う子どもたちの体力、運動能力の低下が年々見られ大きな問題となっている。 ・学校体育授業の中だけで体力向上を目指すのは難しいため、体育授業にサポートプログラムを実施することにより少しでも体力の低下傾向に歯止めをかけ、上昇に転ずることを目指す。 ・運動が苦手な子供でも楽しく、遊び感覚で走る、跳ぶ、投げるなど基本的な動作を自然に身につけられる運動遊びメニューと運動能力測定を組み合わせたプログラムであるヘキサスロン（各種道具を使用）を市内の小学校で取り入れ、体力・運動能力の向上を目指す。
自己評価	・ヘキサスロンを実施した児童の運動能力の向上は見られたが、5年生で実施している体力測定の結果は前年度と同じく、県の結果を上回る率は 18.8%となっている。
評価委員の評価	運動嫌いの子供もが遊びの延長で運動して、苦手意識を持たなくなり、生涯体を動かせるようなまちづくりのきっかけになっていると思う。 スポーツをやっている子とやっていない子との運動能力の差が拡大し、二極化しているので、全体のレベルを上げてもらいたい。 また、子どもたちが自己評価できる仕組みやよりやる気になるような仕組みを検討していただきたい。
今後の方向性	平成 29 年度で燕市の全小学校の 4 年生で実施したことになるので、平成 30 年度からは低学年での実施や、講習会を実施し教職員へ指導方法を学んでいただき全校、全学年での実施を目指す。

【所管：社会教育課】

＜健全な心と体を支えるスポーツの推進＞

点検項目	東京五輪キャンプ地誘致事業
28 年度達成目標	燕市を東京オリンピックの事前キャンプ地（合宿）として海外に P R し 1 カ国を誘致する。
目標の達成状況	モンゴル国パラアーチェリーの事前合宿を誘致し、平成28年7月26日～8月14日まで、モンゴル国のパラアーチェリー選手と地元吉田高校アーチェリー部や県内競技者、県障害者スポーツ協会と合同練習などのスポーツ交流を行った。（延318人参加） 平成28年7月29日、吉田高校アーチェリー部とアーチェリー部品製造工場見学を実施、その後、磨き屋一番館で金属研磨を体験。（24人参加）また、平成28年8月1日、吉田高校生徒会と吉田下町の今井家を見学し、その後、吉田高校茶道部による茶会を体験し交流を図った。（23人参加） 平成28年8月10日、モンゴル語通訳によるモンゴル国を紹介する文化交流会を開催し、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会による燕市・弥彦村モンゴル国異文化理解教室を開催。（120人参加） モンゴル語通訳によるモンゴル語入門講座を 2 回開催。（延 28 人参加） 誘致 P R パンフレット英語版、仏語版、日本語版をそれぞれ 100 部作成。
取組の概要	・東京オリンピック・パラリンピックホストタウン燕市推進委員会 第 1 回総会開催 ・モンゴル国パラアーチェリー協会と合同練習及び事前キャンプ覚書調印式とレセプションを開催 ・モンゴル国パラアーチェリーチームと吉田高校アーチェリー部で、工場見学会、研磨体験を実施 ・小中学生アーチェリー体験会を 2 回開催 ・モンゴル国パラアーチェリーチームと吉田高校アーチェリー部、市協会合同練習実施 ・吉田高校生徒会と今井家見学、吉田高校茶道部による茶会の開催 ・パラアーチェリーチーム壮行会 （次ページに続く）

	・ 県障害者スポーツ協会レインボウアーチェリークラブと交流練習会を開催 ・ 山本 博 氏 によるアーチェリー講習会開催 ・ 寺川 綾 氏 スイミング・クリニック、燕中学校の生徒、保護者対象の講演会の開催 ・ オリンピック・パラリンピック等経済界協議会による燕市・弥彦村モンゴル国異文化理解教室の開催 ・ モンゴル語入門講座の開催
自己評価	平成28年度はモンゴル国パラアーチェリー協会の事前合宿が決定するとともに、本協会が来市しスポーツ交流及び文化交流を実施した。 また、パラリンピックでのキャンプ地誘致は、モンゴル国で決まっているが、オリンピックでのキャンプ地誘致となっていないため、オリンピックにおいても誘致を目指したい。
評価委員の評価	東京五輪キャンプ地誘致に手を挙げたことで、燕市としてもオリンピックを応援するきっかけになっているので、メディアを上手に使ってPRしてもらいたい。 モンゴル国のパラリンピックのキャンプ地が決定したということで成果は出ており、パラアーチェリー協会との交流は、特に若い世代や吉田高校アーチェリー部にとっては、貴重な経験であった。 オリンピックのキャンプ地誘致も成功させていただきたい。
今後の方向性	平成 28 年度に作成した新しいPRパンフレットを全日本アーチェリー連盟や在日大使館などを通じて欧米のアーチェリー強豪国へPRを実施し、オリンピックでのキャンプ誘致を図る。 また、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会と連携し、市民向けモンゴル国異文化教室や食育教室、アーチェリー教室などを開催しホストタウン構想を推進する。

【所管：社会教育課】

第2次燕市学校教育基本計画の評価

～平成28年度の指標について～

目標1:「ふるさと燕」への愛着や誇りとグローバル社会を生き抜く力を育みます

＜目標の達成状況＞

○全国平均より高い ▼全国平均より低い

指標項目	出所	対象	基準値	H28	H28 全国平均	中間目標値	目標値
			H27			H31	H34
「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した小学6年生と中学3年生の割合	全国学力・学習状況調査	小学6年生	80.4%	○ 78.9%	67.9%	<83%>	<85%>
		中学3年生	33.7%	▼ 44.3%	45.2%	<35%>	<40%>
「将来の夢や目標を持っている」と回答した小学6年生と中学3年生の割合	全国学力・学習状況調査	小学6年生	86.2%	▼ 84.2%	85.3%	<90%>	<90%>
		中学3年生	71.5%	○ 72.1%	71.1%	<75%>	<80%>
全国学力・学習状況調査で全国平均以上の教科数 ※ 国語A・B、算数・数学A・Bの全8教科	全国学力・学習状況調査	小学6年生	4教科	4教科		<4教科>	<4教科>
		中学3年生	2教科	4教科		<4教科>	<4教科>
標準学力検査偏差値平均50以上の中学1年生から3年生の教科の数(国語・数学・英語) ※中学1年生の英語を除く全8教科	全国標準学力調査(NRT)	中学1年生	2教科	2教科		<2教科>	<2教科>
		中学2年生	3教科	2教科		<3教科>	<3教科>
		中学3年生	1教科	3教科		<3教科>	<3教科>
「朝食を毎日食っている」と回答した小学6年生と中学3年生の割合	全国学力・学習状況調査	小学6年生	97.7%	○ 96.4%	95.5%	<100%>	<100%>
		中学3年生	93.0%	○ 95.5%	93.3%	<100%>	<100%>

＜評価委員の評価＞

・「地域の行事に参加している」の項目で中学生が全国平均より低い。全国調査と同じ設問で違いを確かめるのは有効であると思うが、これだけいろいろな事業をやっているのだから、燕市への愛着について、もっと直接的に聞けば、いい数値になるのではないかな。

・「将来の夢や目標をもっている」の項目が、小学生で全国より低く、中学生も高くない。「Good Job つばめ」などで職場体験を進めているので、もっと高い数値になるのではないかな。もっとねらいに迫る取組が必要ではないかな。

＜今後の方向性＞

・評価指標を「燕市が好きですか」などの設問にすることで、施策の評価がより明確にできるのではないかな検討する。

・現在市内で取り組んでいるキャリア教育において、事前に課題をもたせ、事後にその検証をさせるなど、体験から得られる成果を生徒が実感できるように指導を充実させる。

目標2:「生きる力」を育み、個を伸ばす教育を実現する学校づくりを行います

<目標の達成状況>

○全国平均より高い ▼全国平均より低い

指標項目	出所	対象	基準値	H28	H28 全国平均	中間目標値	目標値
			H27			H31	H34
「教職員研修講座に参加してよかった」と回答した教職員の割合	研修講座アンケート	教職員	72.3% ※H26	93.8%		<75%>	<80%>
「学校に行くのは楽しいと思う」と回答した小学6年生と中学3年生の割合	全国学力・学習状況調査	小学6年生	89.0%	○ 87.9%	86.3%	<90%>	<92%>
		中学3年生	84.4%	○ 85.4%	81.4%	<85%>	<87%>
「自分には、よいところがあると思う」と回答した小学6年生と中学3年生の割合	全国学力・学習状況調査	小学6年生	75.4%	○ 77.5%	76.3%	<78%>	<80%>
		中学3年生	70.0%	○ 74.0%	69.3%	<73%>	<75%>
「特別支援教育について理解し、授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫など)を行った」と回答した学校の割合	全国学力・学習状況調査	小学校	100.0%	○ 100%	89.4%	<100%>	<100%>
		中学校	80.0%	○ 100%	89.1%	<100%>	<100%>

<評価委員の評価>

・「学校に行くのは楽しいと思う」という項目で、小学校6年が、87.9%というのは、高いのか低いのか。100%が当たり前のような気がする。

・「自分には、よいところがあると思う」という項目が小学校、中学校ともに70%台というのは、低いのではないかと。国民性として、自己評価が厳しいという傾向は理解できるが、もっと自分に自信をもたせるような施策を考える必要があると思う。

<今後の方向性>

・「自分には、よいところがあると思う」の項目については、直接に結びつく施策が明確にあるものではなく、目標2の重点施策全体をとおして、自己肯定感を高めていくという考えであった。この項目については、より直結した施策の必要性を検討する。

・目標値や昨年度との比較だけでなく、全国平均との比較という視点も加え、それぞれの数値の考察をする必要がある。

・考察の結果を踏まえ、中間目標値や最終の目標値の見直しを図りたい。

目標3: 学校・家庭・地域の連携を強化し、子どもが地域社会で健やかに育つ環境づくりに努めます

<目標の達成状況>

○全国平均より高い ▼全国平均より低い

指標項目	出所	対象	基準値	H28	H28全国平均	中間目標値	目標値
			H27			H31	H34
近隣の小中学校との連携についてそれぞれ「行った」と回答した学校の割合 ①教育目標の共有 ②授業研究などの合同研修 ③意見交換など教員同士の交流 ④教育課程に関する共通の取組 ※H28から4項目に変更	全国学力・学習状況調査	小学校	66.7%	▼①46.7% ○②80.0% ○③86.6% ○④80.0%	①54.5% ②62.5% ③80.0% ④47.1%	<80%>	<80%>
		中学校	60.0%	▼①60.0% ○②100% ○③100% ○④100%	①61.5% ②72.5% ③85.0% ④54.9%	<80%>	<80%>
学校支援ボランティア活動支援のべ回数	地域に根ざす学校応援団事業報告書	ボランティア	4237回	4089回		<4300回>	<4400回>

<評価委員の評価>

・小中学校の連携のように、すでに100%に達している項目は、指標のレベルを上げたり、焦点化したりする必要がある。

<今後の方向性>

・ある程度全国平均を十分超えていて、比較が不要な項目については、ご指摘のように、質問項目そのものを変更して設定するなど改善を検討したい。

目標4:安全・安心な環境で学べるよう、教育環境の整備、充実を図ります

＜目標の達成状況＞

指標項目	出所	対象	基準値	H28	H28 全国平均	中間目標値	目標値
			H27			H31	H34
「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と回答した小学6年生と中学3年生の割合	全国学力・学習状況調査	小学6年生	94.5%	○ 95.2%	94.4%	<96%>	<98%>
		中学3年生	95.3%	○ 95.9%	94.3%	<96%>	<98%>
「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した小学6年生と中学3年生の割合 ※H28からこの項目に変更	全国学力・学習状況調査	小学6年生	95.5%	○ 85.1%	84.6%	<96%>	<98%>
		中学3年生	94.8%	○ 85.8%	83.8%	<96%>	<98%>
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した小学6年生と中学3年生の割合	全国学力・学習状況調査	小学6年生	96.8%	○ 97.2%	96.6%	<100%>	<100%>
		中学3年生	95.6%	○ 96.2%	93.6%	<100%>	<100%>
「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した小学6年生と中学3年生の割合	全国学力・学習状況調査	小学6年生	95.7%	○ 94.8%	93.8%	<96%>	<98%>
		中学3年生	94.0%	○ 94.8%	92.8%	<96%>	<98%>

＜評価委員の評価＞

- ・「全国学力・学習状況調査」の活用という既存の項目を活用すると、客観的なデータとして見ることができるが、反面、目標や施策と直結しない項目になり、評価がわかりにくくなっているのではないかと。
- ・「全国学力・学習状況調査」の活用は、全国との比較ができ、何年か続けることでその目標の客観的評価ができるのであまり変えない方がよい。

＜今後の方向性＞

- ・本計画の指標作成時から、検討委員会からの指摘を受けていた。本指標は、施策と項目が1つずつ対応するという考えでなく、目標全体に対しての評価項目という考え方である。
- ・指標と施策の関係性については、今後、指標の数値について考察を加える中で、関係を説明していく必要がある。

Ⅳ 教育委員会の会議及び教育委員の主な活動状況

1 教育委員会の会議

○4月定例会教育委員会【平成 28 年4月 26 日（火）】

諸報告：（１）教育長職務代理者の指名について

（２）行事報告及び行事予定

（３）教育長報告

（４）寄附報告

報 告：報告第 1 号 共催・後援の教育長専決報告について

報告第 2 号 燕市保育園条例施行規則の一部改正について

報告第 3 号 燕市認定こども園条例施行規則の一部改正について

協議題：協議第 1 号 新規共催・後援申請について

議 案：議案第 30 号 燕市スポーツ推進委員の委嘱について

議案第 31 号 燕市社会教育施設使用料見直し検討委員会設置要綱の制定について

議案第 32 号 平成 28 年度燕市立幼稚園、こども園、小学校及び中学校における学校評議員の委嘱について

○5月定例会教育委員会【平成 28 年5月 27 日（金）】

諸報告：（１）行事報告及び行事予定

（２）教育長報告

報 告：報告第 4 号 共催・後援の教育長専決報告について

報告第 5 号 燕市立小学校管理職の人事異動について

議 案：議案第 33 号 燕市立図書館条例施行規則の一部改正について

議案第 34 号 平成 28 年度燕市立小学校及び中学校における学校医等の委嘱について

議案第 35 号 燕市立小中学校における衛生管理者及び衛生推進者の任命について

議案第 36 号 燕市公民館運営審議会委員の委嘱について

議案第 37 号 燕市社会教育委員の委嘱について

議案第 38 号 燕市図書館協議会委員の委嘱について

議案第 39 号 燕市青少年育成センター運営協議会委員の委嘱について

議案第 40 号 燕市文化会館運営審議会委員の委嘱について

議案第 41 号 燕市文化財調査審議会委員の委嘱について

議案第 42 号 燕市学校支援地域本部地域コーディネーターの委嘱について

その他：（１）平成 27 年度燕市教育行政評価結果報告について

○6月定例教育委員会【平成 28 年6月 29 日（水）】

諸報告：（1）行事報告及び行事予定

（2）教育長報告

報 告：報告第 6 号 共催・後援の教育長専決報告について

協議題：協議第 2 号 新規共催・後援申請について

議 案：議案第 43 号 燕市生涯学習人材バンク事業実施要綱の制定について

議案第 44 号 燕市スポーツ推進審議会委員の委嘱について

議案第 45 号 燕市立小中学校における衛生推進者の任命について

議案第 46 号 燕市就学援助実施要綱の一部改正について

○7月定例教育委員会【平成 28 年7月 28 日（木）】

諸報告：（1）行事報告及び行事予定

（2）教育長報告

（3）寄附報告

報 告：報告第 7 号 共催・後援の教育長専決報告について

協議題：協議第 3 号 新規共催・後援申請について

その他：（1）保育園の民営化説明会の開催状況と今後の対応について

○8月定例教育委員会【平成 28 年8月 25 日（木）】

諸報告：（1）行事報告及び行事予定

（2）教育長報告

報 告：報告第 8 号 共催・後援の教育長専決報告について

協議題：協議第 4 号 新規共催・後援申請について

議 案：議案第 47 号 燕市教育行政評価委員会委員の委嘱について

議案第 48 号 燕市子どもを育む推進協議会委員の委嘱について

議案第 49 号 燕市学校支援地域本部地域コーディネーターの委嘱について

○9月定例教育委員会【平成 28 年9月 30 日（金）】

諸報告：（1）行事報告及び行事予定

（2）教育長報告

（3）寄附報告

報 告：報告第 9 号 共催・後援の教育長専決報告について

協議題：協議第 5 号 新規共催・後援申請について

議 案：議案第 50 号 燕市学校支援地域本部地域コーディネーターの委嘱について

議案第 51 号 燕市立学校管理運営に関する規則の一部改正について

議案第 52 号 燕市教育委員会附属機関の委員の報酬に関する要綱の一部改正について

議案第 53 号 燕市次世代育成支援推進委員会設置要綱の廃止について

- その他：(1) 平成 28 年第 3 回燕市議会定例会（教育委員会関係抜粋）
1) 平成 28 年度燕市一般会計補正予算（第 3 号）の概要について
2) 一般質問について
(2) 燕市の全国学力・学習状況調査の結果について
(3) 燕市生涯学習人材バンクの利用受付開始について

○10 月定例教育委員会【平成 28 年 10 月 28 日（金）】

- 諸報告：(1) 行事報告及び行事予定
(2) 教育長報告

報 告：報告第 10 号 共催・後援の教育長専決報告について
協議題：協議第 6 号 新規共催・後援申請について
その他：(1) 教育委員の視察について

○11 月定例教育委員会【平成 28 年 11 月 29 日（火）】

- 諸報告：(1) 行事報告及び行事予定
(2) 教育長報告
(3) 寄附報告

報 告：報告第 11 号 共催・後援の教育長専決報告について
その他：(1) 平成 28 年第 3 回燕市議会臨時会（教育委員会関係抜粋）
1) 平成 28 年度燕市一般会計補正予算（第 4 号）の概要について

○12 月定例教育委員会【平成 28 年 12 月 27 日（火）】

- 諸報告：(1) 行事報告及び行事予定
(2) 教育長報告
(3) 寄附報告

協議題：協議第 7 号 新規共催・後援申請について
議 案：議案第 54 号 燕市いじめ防止対策等専門委員会委員の委嘱について
その他：(1) 平成 28 年第 4 回燕市議会定例会（教育委員会関係抜粋）
1) 平成 28 年度燕市一般会計補正予算（第 5 号）の概要について
2) 一般質問の概要

○1 月定例教育委員会【平成 29 年 1 月 30 日（月）】

- 諸報告：(1) 行事報告及び行事予定
(2) 教育長報告
(3) 寄附報告

報 告：報告第 1 号 共催・後援の教育長専決報告について
協議題：協議第 1 号 新規共催・後援申請について

その他：(1) 平成 28 年度燕市幼稚園・こども園修了式、保育園卒園式、小・中学校卒業式の日程及び出席者（案）について

(2) 平成 29 年第 1 回燕市議会臨時会（教育委員会関係抜粋）

1) 平成 28 年度燕市一般会計補正予算（第 6 号）の概要について

○2月定例教育委員会【平成 29 年 2 月 27 日（月）】

諸報告：(1) 行事報告及び行事予定

(2) 教育長報告

(3) 寄附報告

報 告：報告第 2 号 共催・後援の教育長専決報告について

協議題：協議第 2 号 燕市立保育園の民営化に係る運営事業者の選定結果について

協議第 3 号 新規共催・後援申請について

議 案：議案第 1 号 燕市公民館条例の一部を改正する条例の施行期日を定める規則の制定について

議案第 2 号 燕市公民館条例施行規則の一部改正について

議案第 3 号 燕市文化財収蔵庫管理規則の制定について

議案第 4 号 燕市立小・中学校管理職の人事異動について

○3月定例教育委員会【平成 29 年 3 月 29 日（水）】

諸報告：(1) 行事報告及び行事予定

(2) 教育長報告

(3) 寄附報告

報 告：報告第 3 号 共催・後援の教育長専決報告について

議 案：議案第 5 号 燕市嘱託事務指導員の勤務条件に関する要綱の制定について

議案第 6 号 燕市英語指導助手の勤務条件に関する要綱の一部改正について

議案第 7 号 燕市スクールソーシャルワーカーの勤務条件に関する要綱の一部改正について

議案第 8 号 燕市学校図書館司書業務嘱託員の勤務条件等に関する要綱の一部改正について

議案第 9 号 燕市学習支援員の勤務条件等に関する要綱の一部改正について

議案第 10 号 燕市教育センター専任所員の勤務条件に関する要綱の一部改正について

議案第 11 号 燕市嘱託指導主事の勤務条件に関する要綱の一部改正について

議案第 12 号 燕市適応指導教室指導員の勤務条件に関する要綱の一部改正について

- 議案第 13 号 燕市学校支援地域本部地域コーディネーターの委嘱について
- 議案第 14 号 平成 29 年度燕市立小学校及び中学校における学校医等の委嘱について
- 議案第 15 号 燕市立小中学校における事務長および事務主任の任命について
- 議案第 16 号 燕市児童館及び児童クラブ嘱託員の勤務条件に関する要綱の一部改正について
- 議案第 17 号 燕市家庭教育講座実施要綱の制定について
- 議案第 18 号 燕市文化活動支援助成金交付要綱の制定について
- 議案第 19 号 燕市図書館協議会運営規則の一部改正について
- 議案第 20 号 燕市子ども体験活動支援センター指導員の勤務条件に関する要綱の一部改正について
- 議案第 21 号 燕市地区公民館館長の勤務条件等に関する要綱の一部改正について
- 議案第 22 号 燕市長善館史料館館長の勤務条件に関する要綱の一部改正について
- 議案第 23 号 燕市分水良寛史料館館長の勤務条件に関する要綱の一部改正について
- 議案第 24 号 燕市文化会館技術嘱託員の勤務条件に関する要綱の一部改正について

その他：(1) 平成 29 年第 1 回燕市議会定例会（教育委員会関係抜粋）

- 1) 平成 28 年度燕市一般会計補正予算（第 7 号）の概要について
平成 28 年度燕市一般会計補正予算（第 8 号）の概要について
 - 2) 一般質問の概要
 - 3) 契約の締結について（吉田北小学校大規模改造工事（建築））
- (2) 燕市立幼稚園条例及び関係規則の一部改正について

2 教育委員の市内視察

開催日	視察先	視察内容
5月27日(金)	吉田小学校	ICT 授業
	児童クラブメート	児童クラブ全般
7月14日(木)	あおい保育園	おはようタイム
	分水中学校	通常授業
	西部学校給食センター	給食試食
8月1日(月)	吉田アーチェリー場	モンゴル国オリパラアーチェリー選手団の練習
	今井家	モンゴル国選手団とともに今井家住宅を見学
	吉田西太田保育園	通常保育
	吉田ふれあいセンター	吉田高校茶道部の羽ばたけつばくろ応援事業
11月24日(木)	燕こども園	通常保育・授業
	(株)味彩燕	給食試食
	松長小学校	長善タイム
12月27日(火)	吉田産業会館	燕キャプテンミーティング

3 教育関係会議への出席

- ・全県教育長会議（4/18（月）新潟県庁）
- ・新潟県都市教育長協議会春季定期総会（5/23（月）柏崎市）
- ・新潟県市町村教育委員会連合会定期総会及び研修会（7/15（金）加茂市）
- ・新潟県都市教育長協議会秋季定期総会（10/19（水）新発田市）

V 教育行政評価結果報告書作成にあたって

燕市では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正に基づき、平成 28 年度は「新教育長」が就任しました。

新教育長のもと、施政方針で示された「地域に根ざした教育の推進と子育て支援」を基本方針の 1 つとして掲げ、その具体的な施策として「知・徳・体を育成する教育の推進」と「安心して産み育てられる子育て支援」を掲げて、事業を実施してまいりました。

また、平成 28 年度は、第 2 次燕市学校教育基本計画の開始年度であり、「知・徳・体のバランスがとれた、心豊かで生きる力がみなぎる子ども」という目指す子ども像に向けて、着実に進み出したところであります。

教育委員会では、教育行政評価委員からの検討事項を検証し、課題とされる事項については改善を図り、今後も教育施策を推進してまいります。